

二次元ドリームノベルズ

# 天煌聖姫 ヴァーミリオン2

フタナリ快樂に墮ちる母娘ヒロイン

有機企画  
挿絵/火愚夜

18  
未満

試し読み版

## 登場人物紹介

Characters



### かみしろあい か 神城愛華

天王寺学園に通う心優しい少女。母親の冴子に託されて天煌聖姫ヴァーミリオンとなり、デモンコアと戦う。



## 天煌聖姫ヴァーミリオン

### かみしろさえこ 神城冴子

愛華の母親。デモンコアとの戦いから一線を退いていたが、ダルルゴアとの戦いのために復帰する。



## 天煌聖姫セルシアン



### エリス

《色欲の夜天》の二つ名を持つ、Sクラスのデモンコア。

### よつぎあかね 四木茜

愛華の親友。エリスによってデモンコアに改造されてしまう。



### アカネ

第十五話	忍耐の公開浣腸! フタナリ書道と大便我慢!	006
第十六話	魔に堕ちるスポーツ少女! 最終調教開始!	041
第十七話	対決! ふたなりデスマッチ! ブリッジ射精する戦闘ヒロイン!	056
第十八話	超羞恥のチンポバレード! 母娘でフタナリ69!	080
第十九話	戦慄の空中セックス! ワイバーンに弄ばれる太陽の聖姫!	106
第二十話	スポーツジムで変態調教! 淫勃起のフタナリランニング&ザーメン腕立て伏せ!	126
第二十一話	息子による辱悦調教! 怪しい薬でフタナリ触手アクメ!	152
第二十二話	苦悶の壁尻淫戯! 蒼髪ヒロインは公衆便女!	173
第二十三話	欲情回想! ブルマ姿で処女喪失するラミア少女!	201
第二十四話	愛欲のフタナリデリヘル! 童貞を奪う美少女ヒロイン!	216
第二十五話	共感絶頂のフタナリ3P! 白濁に悶える紅髪ヒロイン、ラミア少女!	244
第二十六話	屈辱のチンポ宴会芸! 全裸で腹踊りをするママヒロイン!	272
第二十七話	背徳の玉イジメ温泉レポート! 近親快樂の道に堕ちるセルシアン!	296
第二十八話	甘いケーキセックス! 全学園生徒の前でフタナリ挿入!	324
第二十九話	欲望の近親絶頂! 母と交わる紅髪ヒロイン!	354
第三十話	堕ちる太陽! フタナリ近親射精地獄!	386
最終話	変態ベットゴミザーメン宣言! 白濁に狂う天煌聖姫!	415
番外編	変態ベット人間卒業式	448

悪魔幼女はセルシ안의挑発を飄々と受け流す。リングから降りて実況席にちょこんと座った。

「言い忘れてたけど試合開始と同時に金網に電流が流れるから。せいぜい気を付けてね♥  
感電したら強制絶頂しちゃうかも♥」

「電流!? き、危険過ぎます！ 残酷です！」

「いいじゃねえか別に。それくらいスリルがあった方が楽しめるぜ」

戸惑うヴァーミリオン相手にアカネは勝気に応える。眷属となり人間を超えた少女はその程度の仕掛けでは驚かない。

二人の天煌聖姫とアカネはそれぞれのコーナーに戻った。試合が始まればもう逃げることはできない。

どちらかが精液を吐き尽くすまでギブアップはないのだ。

「それじゃいつくね〜、『ふたなりデスマッチ』試合開始！」

ゴングが鳴らされ、試合がスタートした。先手をとったのは紅髪、蒼髪のヒロインコンビだ。息の合ったコンビネーションでラミア少女を追い詰める。

「はあっ！ シャインパンチ！」

「フンッ！ アクアキック！」

調教や淫紋の影響で出せる力は二割にも満たないが、ヒョつこのデモンコアに遅れは取らない。

「ぐうう、グッ、あグッ……やるじゃねえか！」

激しい拳撃にコーナーへと追い詰められていく。このままでは金網に接触し、青白い火花を飛ばすことになるだろう。

「ハッ、いい気になるなよ！ 作戦通りだ！」

金網に接触する瞬間、アカネはジャンプで二人の頭上を飛び越え、そのまま背後に着地した。

ピンチと見せかけて逆に追い詰める算段……であったが――

「甘いのはそっちです！」

「空中じゃかわせないわよ」

動きを予測していた母娘ヒロインは自らも跳躍し、空中でアカネを捉えたのだ。ヴァーミリオンが腕、セルシアンが足の関節を極め、リングに背中から着地する。

「ちつ、は、離せ！ 離しやがれ！」

「勝負あります！ セルシアン！」

「ええ、このまま足で射撃してもらおうわね。可哀そうだけど覚悟しなさい！」

勝利を確信する天煌聖姫。しかし、彼女たちは甘かった。相手が人間ならこれで終わりであろうが、少女が完全にデモンコアに堕ちていることを失念していたのだ。

「——なーんてな。やっぱ甘いわ、あんたたち」

「エッ!？」

「なッ!？」

蛇のように関節を曲げるとスリりと極め技を外すラミア少女。人には絶対に不可能な動きで窮地から脱する。

反撃はこれだけにとどまらない。素早くヴァーミリオン、セルシアンの手足に噛みつく。「んッ、アウウウウウウウッ!」

「ア、ヒグウウウウウッ!」

物理的なダメージは噛みあとが残る程度だが、二人は激しく悶絶する。

「どうだあたしの神経毒は？ 身体が痺れて動けないだろ？」

「……毒？ か、からだか……んグウウウッ!」

「ち、力が抜けて立てない……っ! ハグううウウウッ!」

糸の切れた人形のように、マットに沈むレオタード聖姫。形勢は瞬きの内に逆転した。自力では逃げることも敵わず、まさに蛇に睨まれたカエル状態だ。

（っ……悔しいっ！ うぐううっ！）

（こんな毒なんかでっ！ 万全なら……ヒ、ひぎゅうう……っ！）

己の迂闊さを悔いることしかできない。これからフタナリ肉竿を弄ばれるとわかっていても。

「えーと、射撃させりやいいんだよな。ちゃっちゃとやるか」

紅髪、蒼髪ヒロインを仰向けでM字開脚にすると、レタードスーツに切れ込みを入れ、フタナリちんぽを露出させた。

毒には媚薬効果もあるのか、すでに肉幹は怒張し、立派に天を仰ぐ。女性のチンポが二つ並んでいる様はかなり淫猥で滑稽だ。

仇敵の痴態に観客は大盛り上がりで、好き勝手なことを口走っている。

「すげえチンポだな！ 俺よりもデカいんじゃないか！」

「あんなに勃起しといて正義のヒロインかよ！ 笑わせるぜ！」

「い、言わないでください！ いやあ……ま、またおチンポ見られてるう……」

「クッ、Bクラスのオークごときに……」

屈辱に細面を歪ませる母娘聖姫。しかし、外野のことを気にしているヒマはない。アカネがフタナリ金玉を掴むと、グニユグニユと弄んだのだ。

もにゆ♥ もにゆ♥ むにゆ♥ むにゆむにゆ♥

「ああああん♥ そ、そこ……はあ……っ！ や、あ……も、揉んじゃダメです！」

「く……くふううううん♥ ひウ、ア、ウウン……ぐ、ぐにぐにしないで……っ！」

「うるさいな。あんたたちみたいに変態はどこ責められてもうれしいんだろ？ じっとしてろっての」

睾丸を握り乱暴な手つきでマッサージしていく。肉竿とは違う感覚にフタナリ母娘は翻弄され、未知の感覚に侵食される。

「あふう、ひっ、ふうううううううん！ き、キンタマが固くなってきたるうう……っ！」

「あうう、ち、チンポがもつと勃起しちゃう！ 射精したくなるううううううううううう！」

ぐにむにと玉袋を愛撫され、はやくも甘い吐息が漏れ出る。フタナリちんぽは鈴口をパクパクと開き、エサを待つ鯉のように精の放出をせがむ。

子宮もトロトロに蕩けだし、アクメしたくてたまらない。

（我慢しないと……茜ちゃんのためにもこんなところで……っ！）

（あ、ぐ、神聖粒子で毒を中和できるはず……それまで耐えきれば……）







そう易々と屈するわけにはいかない。

勃起チンポを揺らしながら、ザーメン衝動を抑え込む。

（これじゃダメっぽいな。アイツらでいくか）

中々射撃しない天煌聖姫に焦れたアカネは、下僕を使うことに決めた。

魔力を衣装の裏に集中させると、どこに隠れていたのか白い蛇が這い出てくる。

ずる！ ずるる！ ずるるうう！

「ひいッ!? へ、蛇ッ!? 近づけないで！」

「なんだオバサンは蛇嫌いなのか？ ま、事故だと思っただけであきらめてくれよ」

「ヒ、バ、ヒイイイイイイッ！」

爬虫類が苦手なセルシアンがひと際大きな悲鳴を上げる。だが、これはまだ序の口に過ぎない。

蛇たちはレオタードヒロインの手足に巻き付くと、上体を持ち上げ、M字開脚のまま金網に向かって運び始めたのだ。

「待ってください！ だめ……そっちはいけません！」

「お、お願いだからやめてちょうだい！ ウソでしょ……!!」

「冗談でこんなことするかよ。あとの想像はつくよな？」

「茜ちゃん正気に戻ってください！　こんな……こんなダメですっ！」

「いやあああああああ！　そっちはいやあああああああああ！」

冷汗を流し、嫌々と首を振る正義の天煌聖姫。

しかし、もう遅い。真つ直ぐ勃起したフタナリチンポが電流の流れる金網に近づき――

「げ、げあああああああああああああああああああッ！」

「あああああああああああああああああああッ！」

接触した。

バチバチと火花を飛ばしながらフタナリ肉勃起が感電する。全身に雷が走り抜けて、実驗動物めいて身体が痙攣する。

肉竿にも言葉にならない快感が送られ、尿道から串刺しにされるようだ。マゾな肉体はこの状況でも喜びに戦慄き、淫裂から透明な蜜が噴出する。

これだけの衝撃にキンタマ愛撫で勃起させられたマゾチンポに耐えられるはずもなく、二人揃ってザーメンを吐き出した。

ド……ドクンッ♥　ピユ、プピユ♥　ブ、ブリュリユリユウウウウウウウウウウウウッ♥　ブ

ピユ♥　ドビユビユッ♥　ドピドピユズビユビユウウウウウウウウウウウウッ♥　ビュリユ

リユリユリユウウウウウウウウウウウウウウウウウウウウウウウウウウウウウッ♥



「あ……あああああああッ♥ ビリビリします♥ ビリビリするのおおお♥ イ  
クイクイクイクおチンポイッちゃいますウウウウ♥ おおお、感電しながら変態ザ  
メンぶりぶりです♥ はへええ〜ッ♥ わたしのマゾチンポから敗北ザーメンでち  
つてますうううううう♥」

「ゴ、ほおほおほおほおほおッ♥ し、しびれりゅうううッ♥ はッひひひひ  
ひひひひ♥ イッちやう♥ イッちやう♥ 感電しにやがらザーメンでちやうによ  
おおおお♥ おー♥ ほおー♥ ババアマラ汁お漏らしすりゅううううううう♥  
イク♥ イッちやうによおおッ♥」

欲望の煮詰め汁をだらしく吐き出す正義のヒロイン。電流強制射精のオルガスムスで  
清楚な美貌はアへ顔に染まりきる。

「もうイッちまうのかよ！ つたく……だらしねえ牝豚だなオイ！」

「天煌聖姫サマはよほどのマゾみてえだな！ それで人類の味方とは笑わせるぜ！」

「ふあ……あひい……♥」

「へう……お、ふおお……♥」

金網から引き離された後も蕩け顔をやめられない母娘ヒロイン。オークやゴブリンたち  
の嘲笑も今の彼女たちには聞こえないようだ。

射精絶頂の余韻で毒がなくなるとも立てないが、これで悪夢は終わらない。

勝敗は二回目の射精で決まるからだ。

「アへつてるとこ悪いがもう一発いかせてもらうぜ。へへ、覚悟しな！」

「そんな……こし……抜けて……」

「ま、待ちなさいっ！ いま敏感になつてるからあ……っ！」

続けざまの陵辱に呂律の回らないまま懇願するが、その願いが聞き入れられることはない。腰の抜けた変身ヒロインに、蛇の群れが絡みつきポーズを変えていく。

ブリッジの体勢を取らされると、腰を突き出してフタナリちんぽを大きく掲げさせられた。観客全員に見えるように肉竿が天井を睨む。

恥部を晒し者にされ、再び羞恥の炎が燃え盛る。

「や、こ、こんな格好イヤです！ は、離してください！」

「ち、チンポ見られて……デモンコアにチンポ見せつけちゃつて……クッ、なんて無様をっ！」

屈辱姿勢のおかげで虚脱感から復帰し、再び強気を取り戻す正義のヒロイン。だが状況は一向に好転しないままだ。

手足を拘束され動けない彼女たちに、アカネはゆつたりとした動作で近づいた。

十分後。

冴子は謝るために装いを新たにしていた。エリスに逆らうわけにもいかず、指示通りのコスチュームだが、すでに頬が熱い。

「ほ、本当にこの格好で出るの……？ やっぱりやめにしないかしら？」

「往生際が悪いなく。早くしないとみんな待ってるからね」

「くうう……わかってるわよ……！」

想像をはるかに上回るみっともなさには、どうしても二の足を踏んでしまう。デモンコアならまだしも息子の目の前で、痴態を晒すことは未だに躊躇いがあった。

（恥ずかしい恥ずかしい恥ずかしい恥ずかしい！ か、完全に女として終わっているわ……）

まぶたを閉じ、涙を堪える。これも陽一を助けるためなのだと思いをくくり、決死の覚悟で宴会場に進み出た。

女として、人として最低の姿を晒しながら。

「み、皆さま大変長らくお待たせしました……オシッコお漏らしのお詫びに宴会芸をさせていただきますわ。神城冴子の変態姿いっっぱい笑ってね……」



「ぶははははは！ いい格好じゃのお！」

「はははは！ これが天煌聖姫セルシアンか！」

爆笑の渦に包まれる宴会場。老爺オーク全員が腹を抱えて笑い声を上げる。冴子の姿がおかしくて、おかしくて仕方がない様子だ。

「うわー、本当に最低だね。こんな変態女見たことないよ」

「お前らなんてことを……ひど過ぎる……！」

（もうイヤあ。消えたい……消えてしまいたい……！ ヴァーミリオン、誠一郎さん……誰でもいいから助けてえっ！）

陽一の言葉がどこか遠くに聞こえる。まるで極寒にいるかのように奥歯が鳴る。神城冴子が見せた『謝り方』それは、全裸で腹踊りをするのであった。

正義の美熟女聖姫は下品としか言いようのない姿で、席の中心へ進む。右手の扇には『変態』と書かれ、左手の扇には『牝豚』と書かれている。

さらに日カップ巨乳の乳輪を中心に瞳が、引き締まった腹筋には鼻が、淫臭放つ股間には口の絵が描かれ、いきり立つフタナリチンポは真っ赤に塗られ、舌が表現されていた。

中年男性が余興でやる品のない姿そのものだ。

「よく似合つとるのお。うひひひひ」

「ほれ、さつさと踊らんかい」

「そ、それでは冴子のチンポ腹踊りをお楽しみください♥」

引きつった笑みをつくり、人妻ヒロインはデモンコアに媚びを売る。脚を大きく開き腰を落とすと、右の扇を頭の上に掲げ、左の扇で股間を隠す。

人類を守るためではなく、フタナリチンポを晒し者にするためだけの、最低の宴会芸が始まった。

「ちん、ぽっ♥ ちん、ぽっ♥ ちん、ぽこぼん♥ チンポ冴子の腹踊り♥ ちん♥ ぽっ♥ ちん♥ ぽっ♥ ちんぽっぽ♥」

扇を交互に動かして肉竿を隠し、ドタバタとガニ股で踊る。艶やかな唇からは男性器の俗称が絶え間なく飛び出し、正気とは思えない。

まともな女性なら口にするだけでも泣き出してしまいう変態フレーズの連発だ。

「ちんぽっ♥ ちんぽっ♥ ちんぽこぼん♥ 変態人妻冴子のアホ踊りを見てみて〜ん♥ ちんちん♥ ちんちん♥ チンポお〜ん♥」

「わははははは！ これがああのセルシアンのお姿か！」

「まったく無様としか言いようがないのう」

「はあああ〜ん♥ ちんぽ♥ ちんぽ♥ ちんぽ♥ ちんちんちん♥ い……言わないでえ♥ ドマ

ゾ女の勃起マラがもつと大きくなってしまふの♡ んっ、くううううん♡ 蔑まれるの  
のがいいのおお♡ ビンビンになるう♡ ちんちん♡ ぽんぽん♡ ちんぽっぽ♡

変態的な行為が美熟女戦士を発情させていく。マゾ調教された身体が異常なシチュエーションに悦んでしまふ。あまりに無様で格好悪いのに、肉竿は天狗の鼻めいて屹立する。間違つても人前で、それも女性がするのはずのない恥辱遊戯が理知を蕩かせる。

「もつと早く動かしてよね。手抜きはだめだよ」

「はいっ♡ はいっ♡ ちんぽ♡ ちんぽ♡ ちんぽおくん♡ 変態扇子で勃起隠し♡  
はいっ♡ はあゝい♡ 恥ずかしい勃起チンポ見ちゃダメえ♡」

「その調子。その調子」

「ちんちん♡ ぽこぽこ♡ ちんちちくん♡ 天煌聖姫のチン隠し芸♡ 見えないように  
頑張るのおおおおお♡ ほお♡ ほお♡ おほおおおくん♡」

左右の手をせわしなく動かし、真つ赤な勃起肉竿を隠そうとする。当然後ろからは丸見えなのだが、そこまで考えが回らない。

命令されるがままに情けないポーズをとつてしまふ。

「もつと足を大きくあげんかい」

「ちんぽ♡ おちんぽ♡ んっ♡ ふううううん♡ こ、こうかしら♡」



「股を開いてオマンコが見えるようにな」

「こ、こうね♥ ちんちん♥ ちんちん♥ は、は〜い冴子のオマンコ御開帳♥ ドマゾ  
オバサンの下品マンコをご覧になつてえ♥ あん♥ あん♥ ふああん♥ 皆さん、これ  
が私のメス穴で〜す♥」

「これが天煌聖姫のマンコかい。おお臭い臭い」

「ああ、雌臭いのお。貞淑なフリしてとんだエロ年増じゃわい」

「んああああ〜ッ♥ く、臭いババアマンコで申し訳ございません♥ 私のマンコはド  
淫乱のお下劣マンコなんです♥ 子供を二人も生んだのにまだまだ種付けしてほしい色情  
マンコです♥ ま、まんこ♥ まんこ♥ まんこをバカにしてえ♥」

大きく脚を上げ、キンタマの下に隠れていた女陰まで見世物にしてしまう主婦ヒロイン。  
公開羞恥に焼かれたヴァギナは淫蜜にうるみ、ねっとり糸を引いていた。

度重なる調教でマゾヒズムに目覚めた肢体は、視姦され嘲笑されるたびに感じてしまう。  
（これが私の戦いの結末なの!! 天煌聖姫に変身して命がけで戦ってきたのは……人々の  
ために戦ってきたのは……笑われるためだったの!? もうイヤあ!）

自死を選びたくなるような淫辱で、鉄の決意が挫けそうになる。オークだけならまだし  
も息子に変態踊りを見られ、戦う理由を見失いそうだ。

「せいぜい気が狂わないように気を付けなさい」

「セルシアン待ってください！ それだけは本当に……！」

身動きできない変身ヒロインに近親淫行が襲いかかる。セルシアンのフタナリ陰茎はムクムクと怒張し、秘孔に狙いを定めていく。

皮の間から湿った音が漏れ聞こえ、恥垢の香りが鼻腔を刺激する。

（親子でエッチなんてありえません！ そんなことをしたら……もう戻れなくなってしまうです！）

大切な肉親に犯される恐怖。明示された近親セックスに怖気が走る。ただでさえ恥ずべき行為なのに、衆人環視の下で見せつけるなんて正気とは思えない。

（お願い正気に戻って……誰かわたしたちを助けて……っ！）

瞳を閉じて祈るヴァーミリオン。これほど誰かに助けてもらいたいと思ったことはない。奇跡を願ったことはない。

だが、現実是非情。

「母娘らぶらぶセックス見せつけてあげちゃうわ♥ みんながヤキモチを焼くくらいに

♥

「ヒッ、やつ、いやああアアアアアアッ！」

広大な運動場に響き渡る悲鳴。無情にもフタナリ淫辱は進んでいく。セルシアンは硬直した包莖ペニスを淫壺にあてがうと、水風船に針を刺すように、一息に挿入した。

ズブ♥　ズブブ♥　ズブブウウウウウウ♥

「くっ、あああ、んああああアアアアアアアアアアッ！　はぐうああああああああつ！」

「はああ♥　とつてもいいオマンコ感触♥　よく締まってチンポに絡みついてきてえ♥

どんなオナホールよりも気持ちいい♥　さすが私の娘ね♥　ほお♥　おおん♥　おチンポも悦んでいるわ♥　おマンコマンコマンコ♥　おマンコ最高うううううう♥」

「ジ、づづ……むぐううううっ！　そんな……ッ、くぐううううっ！」

尻穴に力を込め、紅髪聖姫は辛うじて射精を押しとどめる。

凶悪なまでに屹立した肉竿は秘孔をミッチリと埋め尽くした。オーク並みの肉レイプに可憐な心が引き裂かれ、同時に黒い欲望がせり上がってくる。

（苦しいはずなのに……嫌なはずなのにドキドキしちゃいます。ママのおチンポたくましくて……）

尊敬する母のチンポでせつなく呻くマゾ聖姫。膣壁で抱擁するように陰莖を迎え入れ、太い肉幹の感触が嫌というほどよくわかってしまう。

包莖とは思えないカリ首のかかり具合。極太の圧迫感が膣内を満たし、牝の充足を植え

付ける。ミミズのような血管が脈打つたびに柔ヒダが震えた。

「セルシアン……やめてください……！」

「無理に決まっているでしょおバカさん♥ ママのチンポなしでは生きられない身体にしちゃうわ♥」

文字通り悪魔の笑みを浮かべ、愛娘を淫辱に堕とそうとする。クールで知的な蒼髪ヒロインとしての彼女はどこにもいない。

原始的な欲求に身を任せ腰を振る。

ズチュ♥ズチュ♥ズボツ♥ジュボボ♥

「ングヴウウウウウウウっ！ら、乱暴にしないで……ん、ぐづぐづううう……あぐううううううううッ！」

「その声たまらないわあ♥興奮しちゃう♥もつと勃起しちゃう♥腰振り♥腰振り

い♥ド勃起チンポで腰振り♥娘マンコ直通しながらへこへこ腰振りいいいい♥んひ

♥んひい♥

「ぐううう！ひうううううう！アソコが……ヒグウウウウウウッ！」

下品な音を立て肉竿が抜き差しされるたびに虹色の快美が脳天を直撃する。膣奥がヒクヒクと痙攣し、感情が辱悦で覆われていく。



子宮の疼きが止まらない。

「キャハハハ！ ママとのセックス楽しそう。よかったねお姉ちゃん♥」

「ひ、ひゃああああああああん！ エリスあなたのせいで……！ ぜ、絶対に許しません！」

「この状況でまだ強がれるのは驚きだけど、おチンチンの方はヤバいんじゃない？ もう射精したくつてたまらないんでしょ？」

「んっ、んっ、うくうううう……それは……おぐ♥ むぐううううう♥」

指摘された通りヴァーミリオンの陰茎は張り詰めていた。蜜壺を犯されるたびに肉勃起が発情し、得も言われぬ吐精リビドーがせり上がってくる。

全身を蝕む魔悦の火種は、立派な大火に成長していた。

（射精だけではできません！ みんなのためにも絶対……！）

アカネや陽一、何よりセルシアンを救うためにヴァーミリオンは抗い続ける。どれだけ花唇を穿たれようと、射精するわけにはいかない。

「ふん♥ ふん♥ ふんううう〜ん♥ あきらめて射精しちゃいなさい♥ どんなに強がってもチンポの快楽には勝てないわ♥」

「うくつ、ひぐうううううううつ！ あふうううううううつ！ た……たとえそう

だとしても、わたしは屈しません！ つぐウウウウッ！」

「あれだけ何度も射精しているのに？ まだ勝てるつもりでいるの？ うふふ♥ 無駄よ

お♥♥ こんなにエロマンコのくせにいい♥ ほひいいいいいい♥」

「んっ、うう……な、何度射精しても……恥ずかしくても天煌聖姫は正義の味方ですから……！」

何度肉悦がこみ上げてこようと、絶頂が手招きしていようと、負けないと宣誓する紅髪ヒロイン。射精を耐えに耐えに耐え、ニコリと微笑む。

「その決意がどこまで本物が見届けてあげるわ。今からアクア・ウィップを抜いてあげる。そうしたらお尻の穴はいつたいたいどうなるのかしらね？」

「そ……それはっ!!」

ヴァーミリオンの顔から血の気が引く。お腹の中は水のタンクだ。引き抜かれれば一瞬も我慢できず中身をぶちまけてしまうだろう。

（みんなの前でまたお漏らしなんて……もし出ちゃったら……わたし……わたしは……）

脳裏をよぎるのは浣腸排泄で射精した時の恥辱。あれ以上の淫悦に果たしてフタナリ肉竿が耐えられるのだろうか？

おまけに今回はあの時以上のギャラリーだ。恥知らずな露出快感に肉勃起が発情してし

まう。

「頑張ります！ 絶対にイッたりしません！」

「最後まで楽しませてくれるわねヴァーミリオン。いいわよ。ママも遠慮なく射精しちゃうから♥ んっ♥ はぁ♥ ハアアアアアアン♥ 種付け♥ 種付け♥ ザー汁チャージャー♥」

「うう……ひううううう、種付けなんて……く、くっああああああああつ！」  
セルシアンの方タナリペニスがさらに膨張する。肉勃起の脈動に慣れた膣肉は、それが射精の合図だとすぐに理解した。

アクア・ウィップがズリズリと後退を始め、膣内射精と肛門水流排泄が一步、一步近づいてくる。

「お尻からひり出しながらイカせてあげる♥ せいぜい壊れないようにふんばりなさい♥ んん♥ ふうううう♥ チンポイク♥ チンポイク♥ イグイグ♥ にっちやりチンポエキスが昇ってくる♥ ザーメンぶちまけ態勢に入る♥ ふううくん♥」

「漏らしちゃダメです……が、我慢……我慢しないと……う、くううう、アアアアアアア〜ッ♥」

グラウンド中に響く紅髪ヒロインの嬌声。歪に膨れ上がったお腹から、言葉にならない

痛みが湧き上がる。浣腸のあと一週間も排便を禁じられているように。

おまけにセルシアンセルシアンの怒張肉が無遠慮に膣内をかき混ぜる。膣孔を自分好みに変形させながら、フタナリ包茎がしゃくり上げる。暴走列車のごとく突き進む獸性に、手加減の文字はない。

「イグ♥ イグ♥ もうイグのおおおお♥ 娘マンコに中出し♥ キツキツエロマンコに中出し♥ ドス黒欲望マラ汁注ぐ♥ 包茎チンカスなすりつけながらチンポエキスで種付けするのおおおお♥」

「ッぐうううむ♥ ふう♥ はああ……♥ あああアアアアん♥」

腰振りのスピードは勢いを増し、鈴口が歓喜に戦慄く。カリ首に溜まった恥垢がこぼれ落ち、美少女ヒロインの秘裂を汚す。凶暴なまでのフタナリ突起が少女の想いを打ち砕いていく。

アクア・ウィップはもう九割方抜け出し、菊皺が淫らにヒクつく。

「もほ♥ おお♥ ド変態マラミルクサーバー準備完了♥ 金玉からエロ詰めオタマジヤクシが充填される♥ ミルク♥ ミルク♥ ザーミルク♥ ママチンポミルクくるうううう♥ んひいー♥」

「あウウ♥ と、止まって……止めてえ……」



排便の何十倍も下品な爆音を響かせ、水をひり出す正義のヒロイン。脚を大きく広げたまま肛門を隆起させる姿は、出来の悪い噴水のようだ。

「ちよ、ちよつとウソでしょ!!」

「うわあ……ホントに漏らしてる」

「あ、やああアアア!? い、言わないで……み、見てもダメです! 目をつぶってください! ブリブリお水お漏らし見ないでええええええつ! ツ、うあああああ……せ、セルシアン!?!」

「ほおオオおおお♥へおおオオおお♥ヴァーミリマンコ締まるのお♥漏らしながら締まるなんて本当にドスケベマンコなんだから♥ザーメンザーメンもぶつちまけるううううう♥」

排泄にともないヴァーミリオンの膣穴が全力でフタナリ肉竿を締め付ける。三百六十度全方位から柔肉ヒダが抱擁してくる。

極上の快美に蒼髪ヒロインの特濃精液が鈴口まで顔を覗かせる。凶悪な腰振り運動でヴァーミリオンの背筋に幾重もの辱悦が走り、頭の中が点滅し、白濁液が迸った。

ブリュ♥ブビュ♥ボビュ……ボッボビュルルルウウウウウウウ♥  
ゴブツ♥ブボ♥ドッブリユウウウウウウウウウウウ♥ブブクリユウウウウウ

ウウウウツ♡

「お♡ ほ♡ ほほ♡ ほおおオオオ♡ イグ♡ イグ♡ イグイグイッぐうううううう♡ ブリブリ♡ ブリブリ♡ ザーメンぶりぶりいいいい♡ チンポ欲望の詰まった半固形ザーメンぶりぶり漏らすのおおおおおおおお♡ 娘のドスケベマンコに種付けするうううううう♡ 全力アクメしながら大量射精♡ ザー汁ぶちまける♡ くっさいチンポ汁ぶちまける♡ 濃厚な変態タンパク質ぶちまけるのお♡ ママイキチン汁で種付けしちゃううううう♡ ふひイイイイ♡ いひイイイイ♡ イグ♡ チンポイグ♡ イギまくるうう♡ すごい♡ すごいわヴァーミリオン♡ 最高のオマンコよ♡ スケベ過ぎるオマンコ♡ チンポハメるためだけの淫乱マンコ♡ ザーメン搾り取るためだけのメス器官なおおお♡ むひー♡ もひー♡ 腰振り♡ ケツ振り♡ パコパコ前後が止まらない♡ ふん詰まりザーメン出しながらアクメする♡ 包茎デカチンポでフルパワーでマン肉かき分けアクメするうううう♡ おおおお♡ んほおお、おおオオオオオオオオオ♡ 娘マンコでイギまぐりいいいいいい♡」

鼻の下を伸ばしながらアホ声でアクメするママヒロイン。がむしやらの腰を振り、フタナリ肉竿を打ち付けながら精を吐き出して、近親陵辱を学園中に公開する。

「ほ、本当にイッちゃったの？」





「親子で……うわあ、ヤバ過ぎだろ……」

「さいこうう……♥ 娘マンコいいわあ……♥」

「……ッ……くううう……んくううう♥」

甘い声で排泄の余韻に浸る紅髪ヒロイン。しかし、それでも、正義の心は堕ちない。

ヴァーミリオンのフタナリ肉竿は何度も鈴口をヒクつかせるだけだ。絶頂寸前だがまだ精液を漏らしてはいない。

（こんなところでイクわけにはいきません……！）

残った気力を総動員して射精快樂に耐える。

「すごい。まだおチンチンピュッピュッしてないんだ。エリスびっくりかも」

「当たり前です……！ わたしは……天煌聖姫は負けませんっ！」

透き通るような紅髪が陽光に煌めく。その瞳には穢れ一つない。

アカネや周りのオークたちも驚きに目を見張っていた。

（まだこんな力があるなんてね。でも次は容赦しないから）

悪魔幼女の顔から笑みが消え失せる。醜く、イバラのように形を変えたハート型尻尾は、彼女の本気度を表していた。

天煌聖姫に最後の審判が迫る。

この続きは製品版をご購入の上、  
お楽しみください。

編集・発行

**株式会社キルタイムコミュニケーション**

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル

TEL03-3555-3431 (販売) / FAX03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©KILL TIME COMMUNICATION Printed in Japan

**<http://ktcom.jp/>**

ライトノベルのドキドキじゃ満足できないアナタに送る官能小説雑誌!

妄想最前線を疾走する非現実系・不思議Hコミック誌!

正義感に燃える少女達をたっぷり陵辱! ヒロインのピンチ満載!!

【偶数月】  
隔月発売  
2-4-6-8-10-12月

【奇数月】  
隔月発売  
1-3-5-7-9-11月

【電子版】  
毎月配信  
書籍版は奇数月  
発売!



二次元  
**ドリームマガジン**  
2D DREAM MAGAZINE

コミック O M I C  
**UNREAL**  
アバババ

正義のヒロイン  
**姦獄**  
ファイル

あなたのキモチイをお手伝い! キルタイムのアダルトコミック誌

全国の書店・各種通販サイト、およびダウンロードなどで好評発売中!

電子書籍版も  
好評発売中!

二次元ドリームノベルズ

3D 美少女 3D  
リアルな舞台設定で送る  
官能小説レーベル!

日常に密着したエロス、  
リアルな舞台設定で送る  
官能小説レーベル!

戦うヒロインを屈服させちゃう  
かなり過激な  
陵辱系ライトノベル!

フリタム120%!?  
ジャンルにこだわらない  
ドキドキキララ!

女刑事美優  
美優は自らの身体で...

リアルドリーム文庫

あとみつく文庫

呪詛喰らい師  
キルタイムコミュニケーション小説シリーズ

# あなたはどのタイプの?

二次元ぶち文庫

ハルク

あの人気作品の  
外伝作品もあり!  
電子書籍でしか読めないライトノベル!

「小説家になろう」の男性向けサイト  
「ノクターノンノベルズ」  
から書籍化!

異世界お茶会  
ドキドキキララ  
キララ文庫

ドキドキキララフな  
ライトノベル系  
ドキドキキララ!

姫騎士 クラスメイト!  
ビギニングノベルズ

二次元ドリーム文庫